

腎機能守る活動論文表彰

藤枝市立総合病院などが展開する慢性腎臓病（CKD）の重症化予防の取り組み「ふじえだCKDネット」の実績を報告した論文がこのほど、日本病院学会の優良演題として表彰された。活動は5年目を迎え、腎機能の低い市民が減少するなど成果が表れている。

薬剤投与管理 5年目で成果

CKDネットは同病院、志太医師会、藤枝薬剤師会、同市で連携し、腎機能に影響する薬を避ける薬剤管理などを行う。患者のお薬手帳に貼



「CKDネット」の取り組みを主導する山本医師。成果をまとめた論文が表彰された＝藤枝市立総合病院

介した。同病院によると、この5年間で薬剤に関連した腎障害で同病院に入院する腎臓内科の患者が4分の1に減ったほか、病院全体で腎機能の低い患者の入院割合が37%減少した。市の健診受診者に対する調査では市民の腎機能の向上があった。国民健康保険などの被保険者の調査でも透析患者の割合が後期高齢者で10%減少したことが分かったという。

藤枝のモデルに準拠した取り組みは県内では静岡市や浜松市、富士市、県外では北海道釧路市や東京都立川市などにも広がりを見せている。活動の中心的な役割を果たしている同病院参与の山本龍夫医師は「腎臓内科に来院の重症患者を減らすために始めたが、市全体の変化にまでつながった。さらに多くの地域に広がってくれたら」と期待を寄せる。（藤枝支局・岩下勝哉）

った症状の度合いを示すシールを活用して各機関で情報を共有し、適切な薬剤投与につなげる。論文では、取り組みの目的や仕組み、成果などを紹